

# PIARC TC B.3 「都市圏の持続可能なマルチモーダリティ」

PIARC Technical Committee B.3 (Sustainable Multimodality in Urban Regions)

西村 巧<sup>1</sup>

By Takumi NISHIMURA

## 1 はじめに

当研究所は、PIARC（世界道路協会）、ITF（国際交通フォーラム）等、道路関係国際機関に対する国土交通省等の参画を支援している。そのうちPIARCは、道路の建設、改良、維持、利用の促進や世界全体の道路技術・道路交通政策の向上を目的として1909年に設立された国際機関であり、現在、121カ国が加盟している。

PIARCは、4年間を活動期間として、調査研究、途上国でのセミナー等を実施している。2016～2019年の4年間では、5つのストラテジックテーマ(ST)が設けられ、各テーマの下に、17の技術委員会(TC)と4つのタスクフォース(TF)が設置されている。著者はTC B.3「都市圏の持続可能なマルチモーダリティ」に参加しており、本稿では本技術委員会の活動について紹介する。

表-1 技術委員会(TC)・タスクフォース(TF)

ST A マネジメントと財政	
TC A.1	道路行政のパフォーマンス
TC A.2	道路交通システム経済と社会開発
TC A.3	リスクマネジメント
TF A.1	革新的な資金調達
TF A.2	国家および準国家機関間の協調
ST B アクセスとモビリティ	
TC B.1	道路ネットワーク管理/ITS
TC B.2	冬期サービス
TC B.3	都市圏の持続可能なマルチモーダリティ
TC B.4	貨物輸送
TF B.1	革新的な交通ソリューションに向けた道路設計およびインフラ
ST C 安全	
TC C.1	国家道路安全政策とプログラム
TC C.2	安全な道路インフラの設計と運用
TF C.1	インフラのセキュリティ
ST D インフラストラクチャ	
TC D.1	アセットマネジメント
TC D.2	舗装
TC D.3	橋梁
TC D.4	地方道路と土工
TC D.5	道路トンネル管理
ST E 気候変動、環境と災害	
TC E.1	気候変動適応戦略/レジリエンシー
TC E.2	道路事業および運用における環境配慮
TC E.3	災害マネジメント

## 2 TC B.3「都市圏の持続可能なマルチモーダリティ」の概要

本技術委員会は、2016～2019年の期間に、①「マルチモーダルな都市交通政策および戦略」、②「マルチモーダルな結節点および新たな道路モビリティを含む道路を基盤としたモビリティソリューション」、③「土地利用及び都市開発」の3つの課題を設けて、国際的な調査やセミナー等の活動を行っている。

技術委員会での活動では、都市交通施策に関するいくつかのトピックを設定して、それに基づいて各国が事例を提出して議論を行っている。

技術委員会の委員長はフランスが務め、世界から28カ国が参加している。技術委員会は年2回開催され、また途上国への技術移転を目的とした国際セミナーもアルゼンチンで開催している。

2017年度は、第3回技術委員会が6月に北京で、第4回技術委員会が11月にブリュッセルで開催された。

## 3 第3回技術委員会及び World Transport Convention 2017

### (1) 第3回技術委員会

北京で開催された第3回技術委員会では、前回会合で決定した以下の各トピックに応じて、それぞれのコーディネーターから検討すべき論点等の説明や意見交換が行われた。

- ・BRT: アルゼンチンのBRT (Bus Rapid Transit,) の状況説明。往年のテクニカルレポートにあるBRTのキーワードを説明し、BRTのコンセプトとして考えられる論点を提起。
- ・Level of Service: Highway Capacity Manual / Transit Capacity and Quality Manual等のマニュアルを参照し、交通モード(自動車、公共交通、歩行者、自転車、貨物+バイク)の特性を踏まえて議論す

<sup>1</sup>交通・社会経済部門 部門長兼グループマネジャー

- べき論点を提示。
- Emerging Service: 都心部の駐車場不足、新世代の都心回帰等の傾向を踏まえ、カー（バイク）シェアリング、MaaS (Mobility as a Service) 等の新しい交通体系を取り入れた場合の利用者、メーカー、行政等のメリットやデメリット、影響等の論点について提起。
  - Conceptual Framework: TCB.3の各トピックの関係等を整理した概念的枠組みに、Emerging Service等の新たなトピックを追加し深度化（日本が担当している）。
  - Multimodal Interchange: 鉄道+道路、長距離／短距離等に焦点をあて、バス、メトロ、鉄道等のマルチモーダル交通結節点の論点を提起。
  - TOD: TOD (Transit-oriented development) の取組による自動車交通の減少、温室効果ガスの削減効果等の既調査の紹介。
  - HOV/HOT: 米国で実施したHOV (High-occupancy vehicle) レーン、HOT (High-occupancy toll) レーンに関する調査結果を紹介し、HOVからHOTに転換するニーズや事例が増えている状況、そのメリット、効果等について提起。
  - Active Mode: 歩行者、自転車、公共交通の利用に関するボローニャの事例や17カ国が参加するECC (ヨーロッパ・サイクリング・チャレンジ) の取組を紹介。
  - Accessibility: 南アフリカの高速道路整備の状況とIC付近における歩行者移動経路（ペデストリアンデッキ）の整備の課題、自動車交通の死亡事故の状況、公共交通機関（鉄道等）におけるユニバーサルデザインの制定状況と課題について提起。

##### (2) World Transport Convention 2017

本会合は、World Transport Convention 2017 (WTC) と同時に開催された。WTCは、中国公路学会 (CHTS) が、中国技術院 (CAE)、中国科学技術協会 (CAST)、中国交通省 (MOT) の協力を得て、交通システム全般の設計、建設、管理に関する政策や計画、成功事例、実証実験、ビジネス展開、世界協力等について国際的な知見を図ることを目的にしている。

特筆すべきプレゼンテーションとしては、テキサス

大学より自動運転の階層化・要件・実証実験等に関する取組状況、中国技術院より高速鉄道を含む鉄道の整備状況と今後の計画、上海交通設計研究院より中国国産旅客機の開発と空路の「一带一路」構想、中国通信建設会社より建設中の香港～マカオ間道路（海底トンネル、長大橋梁の施工状況を含む）に関する情報提供があった。会議全般的には、「一带一路」構想を後押ししようとする雰囲気で満ちていた。

## 4 第4回技術委員会

ブリュッセルで開催された第4回技術委員会では、各トピックについて、コーディネーターから検討状況の報告があり、技術委員会の報告書の構成について議論された。報告書の構成は以下の通りである。

### 1章 イントロダクション

- 都市交通の複雑性
- 課題
- なぜ持続可能なマルチモーダリティに取り組むのか
- 概念的な枠組み

### 2章 マルチモーダルな都市交通政策および戦略

- 交通需要
- マルチモーダルなサービスレベル
- アクセシビリティ

### 3章 マルチモーダルな結節点および新たな道路モビリティを含む道路を基盤にしたモビリティソリューション

- 交通結節点
- BRT
- HOV、HOT
- アクティブモード（自転車、徒歩）

### 4章 土地利用及び都市開発

- TOD

### 5章 結論

今後の本技術委員会のスケジュールは、2018年末までに報告書のドラフト（英語版）を作成し、その後、フランス語版とスペイン語版の作成、2019年秋に開催される世界道路会議における本技術委員会のセッションの準備等を進めていくこととなっている。